

////////////////////////////////////NPO法人 高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行 (☎0568-94-0119)

「高蔵寺リ・ニュータウン計画」骨子案 明るい未来へ道筋求め 本会が市に意見書提出

今般春日井市が公表した「高蔵寺リ・ニュータウン計画」骨子案は、ニュータウン（NT）再生の指針を示す重要な文書と考えられます。「どんぐりs」はこの骨子案を役員会で検討、その結果を意見書として取りまとめ11月18日に市ニュータウン創生課に提出しました。

意見書には、①NTの当面の課題である少子高齢化への対策を明確にすべきである②再生の鍵となるURとの関係を明確にすべきである③



秋を楽しむ観光客（稲沢市祖父江町） 森 健

“住民・事業者・市の協働”を掲げているが、その趣旨（必要性）や内容を示すべきである④NT周辺の自然環境や農業地域との共存あるいは特性を活かしたまちづくりの案を示すべきである⑤NTの20年、30年先のイメージ（ビジョン）が見えない。骨子案に示された“新しい価値”“まちのブランド力”の具体的内容を示す必要がある、等の指摘と提案を行いました。NT内の7地域で骨子案に対する「意見交換会」が開催されましたが、そこでの意見をも踏まえて修正されるものと期待しています。誰もが住みたいと思うような、明るい未来のNT像、また、その実現のための具体的な道筋を指し示す「高蔵寺リ・ニュータウン計画」の策定を望みたいと思います。（藤城 榮一）

どんぐりsから

- 「旧藤山台東小学校施設の改修設計に係るワークショップ」（ニュータウン創生課主催）が11月22日の第3回目の会合をもって一応の終結をみた。なお、2月頃に改修設計案の報告会が行われるとのことであるが、参加者から提出された意見をどのように改修案として取りまとめるのか期待したいところである。
- ワークショップは毎回30数名の参加者があり、熱心で活発な意見交換があった。とりわけ印象深かったのは、若い世代の発言とグループリーダーの役割発揮であった。幼子を抱えた母親、子育て支援・福祉活動、建築設計など他分野で活動している人たちがそれぞれの立場から積極的な発言や提案をしていた。その姿に、明るい未来と希望をみた気がした。
- 「どんぐりs」も今期、数名の入会者を迎えることができたが、その中には、40代の男性、2名の女性が含まれている。このような新しい力をどう活かしていくか、「どんぐりs」の今後の課題であり、責任でもあると考えている。（藤城 榮）

12月の「どんぐりsカフェ」

テーマ 「うたごえSalon」は地域交流の場
日時 12月19日（土）13時半～16時
講師 山田 博氏
会場 東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1階）
参加料 無料 当日受付

「高齢者・すまい相談会」& ティーサロン

12月13日（日）13時半～16時
12月19日（土）10時半～12時
（会場はいずれも東部ほっとステーション）
電話相談（080-4540-3553）もできます
＝受け付け平日10時～17時

11月のどんぐりsカフェから 地域で広げる国際交流

11月21日の「どんぐりsカフェ」は、国際交流ボランティア「クロスカル」代表、斎藤恵子さんから20年を超える活動の紹介とそこから見てきたことなどについて語っていただいた写真。

1993年に地域情報誌「タウンニュース」発刊10周年記念イベントに「クロスカル」として初参加、その後中部大学留学生との交流が始まった。翌年には春日井市から市のパンフレット英訳や翻訳などの依頼が舞い込み、社会福祉協議会にボランティアグループとして登録。95年には姉妹都市市民の会に入会、春日井祭りにてボ



ランティア通訳や各種会議の通訳の依頼など活動を広げていった。96年には市内在住の外国人向けの月刊「INFORMATION KASUGAI」を発行するなど、外国人の国や地域も広がり、2010年（平成23年）には第11回中日福祉ボランティア賞を受賞するなど、その活動は高く評価されるまでになった。活動範囲も「講演、料理、イベント、翻訳、春日井祭り、姉妹都市の会、社会福祉協議会」など、どの関係者からも期待されている。

後半は、意見交換が活発に行われた。日本人は日本を訪れる外国人には大変親切だと言われている。しかし、いったん地域に住むという事になるとその対応は急変し外国人に対して関わりが消極的になる。移民や難民の問題にも話が及んだ。考えさせられる今日の問題である。多くの外国人は不慣れな日本の生活に困っている。わずか20名前後の会員全員が困難な状況下で頑張っておられる「クロスカル」の活動報告は改めて参加者に感動を与えた。（寺島 靖夫）

●楽農会、秋の収穫祝い芋煮会

11月7日、恒例の生き生き楽農会主催「収穫芋煮会」が、玉野地区で借りている“川端畑”と“さくら畑”で開催されました。参加者は大人29名。子ども5名の計34名でした。今年は里芋の出来もよく、芋煮の味も一塩でした。会話も盛り上がり、若い新入会員も含め高齢者から子供たちまで、玉野の美しい秋の田園風景に囲まれて、おいしくて和やかなひと時を過ごすことができました。

「困りごと相談」
生活上のどんな悩みも、
相談員と一緒に考え、
解決の糸口を探します。
電話：080-4540-3553

私の朝・昼・晩

同級生

10月、小学校時代の同級生と紅葉を見に木曾駒ヶ岳に登った。山頂の紅葉は色あせていたが、懐かしい思い出話に花が咲き、楽しい一日を過ごした。故郷の北杜市秋田小学校以来の友であるが、何故か気が合い、高校まで一緒だった。たまに開催する同級会で彼に会うと、いつも小学校3年時代が忘れられず、話題になる。

当時、腕力の強いいじめっ子がおり、毎日のように悪事を強制された。親にも先生から連絡がいき、ひどく怒られた。親から「次郎物語の次郎は、上級生であろうとも悪事をはたらいたら足に噛みついた」話を聞かされ心に沁みた。彼と相談し翌日から一緒になって言うことを聞かず反抗したところ、クラスの多くがいじめっ子につき2人とも2学期以降、ずーっといじめられた。辛い時期だったが、4年生に向けクラス替えがありほっとした。

この体験から自分の中に曲がったことが嫌いな人一倍強い正義感が芽生え、培われた気がする。生き方の原点にもなった母校は、残念ながら昨年、時代の趨勢で廃校となり、さびしい限りである。（堀内 泰）